

鈴木基井〔訳〕
梁永宣 趙歆 甄雪燕〔著〕

中国 文化 医薬編

カラー版



远流传播出版社

ゼミナール

中国文化

医薬編

梁永宣 趙歆 甄雪燕 [著]

鈴木基井 [訳]



九州伝播出版社

图书在版编目（C I P）数据

医药：日文 / 梁永宣，赵歆，甄雪燕著；（日）铃木基井译著．

——北京：五洲传播出版社，2016.10

（中国文化系列 / 王岳川主编）

ISBN 978-7-5085-3555-5

I．①医… II．①梁… ②赵… ③甄… ④铃… III．①中国医药学—医学史—日文 IV．①R-092

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2016) 第 240701 号

主 编：王岳川

出 版 人：荆孝敏

统 筹：付 平

中国文化·医药

著 者：梁永宣 赵 歆 甄雪燕

翻 译：（日）铃木基井

责任编辑：苏 谦

图片提供：梁永宣 FOTOE CFP 东方 IC

出版发行：五洲传播出版社

地 址：北京市海淀区北三环中路 31 号生产力大楼 B 座 6 层

邮 编：100088

发行电话：010-82005927 82007837

网 址：<http://www.cicc.org.cn> <http://www.thatsbooks.com>

印 刷：北京浙京印刷有限公司

版 次：2017 年 1 月第 1 版第 1 次印刷

开 本：787×1092mm 1/16

印 张：11.5

字 数：180 千字

定 价：108.00 元

目次

序5

Part 1 古代中医の発展歷程7



女性が分娩する時の様子を描いた元代の壁画

中医と中国伝統文化7

古典医籍の流伝14

古代医師の術と徳21

古代臨床各科の精華29

Part 2 中医基礎理論43



『黄帝内经素問』複本

中医学の基礎の作

『黄帝内经』43

日月と陰陽

中医の陰陽理論45

五色土からの言及

中医の五行48



陰陽五行八卦図



張仲景の肖像画

天人合一整体を話す

中医学の全体観51

中国人の精・気・神54

血液と津液61

中医五臓を語る64

人はなぜ病にかかるのか75

中医の診断方法 **望聞問切**78

中医の弁証論治90

中医未病を治す92

Part 3 漢方薬の知識95



「本草綱目」に描かれた薬用植物

漢方薬の起源95

万象を網羅する漢方薬98

炮制と加工101

漢方薬の性と味104

漢方薬の剤形の違い108

医者の手の中にある治病チーム113

時間が経つほど新しくなる漢方薬115

Part 4 鍼灸と外治118



「手陽明大腸経」図

経絡と腧穴	118
鍼刺と艾灸	127
内病外治の方法の多さ	133

Part 5 中医養生を語る142



薬補は食補に及ばず

バランスと健康	142
情志と疾病	144
薬食同源	147
五穀養に為る	150
四時養生	153
過不及のない動静	156

Part 6 近現代中医学の発展159



中国で初めてのイギリス
東インド会社眼病医院

近代中西医の争い	159
中西医彙通の試み	161
中西医結合の模索	164



中国中医科学院

現代中医教育と伝承165

現代中医診療の特徴167

民族医薬の概況169

付録1：中医薬発展の年代記172

付録2：中国歴史年代早見表176

目次

序5

Part 1 古代中医の発展歷程7



女性が分娩する時の様子を描いた元代の壁画

中医と中国伝統文化7

古典医籍の流伝14

古代医師の術と徳21

古代臨床各科の精華29

Part 2 中医基礎理論43



『黄帝内经素問』複本

中医学の基礎の作

『黄帝内经』43

日月と陰陽

中医の陰陽理論45

五色土からの言及

中医の五行48



陰陽五行八卦図



張仲景の肖像画

天人合一整体を話す

中医学の全体観51

中国人の精・気・神54

血液と津液61

中医五臓を語る64

人はなぜ病にかかるのか75

中医の診断方法 **望聞問切**78

中医の弁証論治90

中医未病を治す92

Part 3 漢方薬の知識95



「本草綱目」に描かれた薬用植物

漢方薬の起源95

万象を網羅する漢方薬98

炮制と加工101

漢方薬の性と味104

漢方薬の剤形の違い108

医者の手の中にある治病チーム113

時間が経つほど新しくなる漢方薬115

Part 4 鍼灸と外治118



「手陽明大腸経」図

経絡と腧穴	118
鍼刺と艾灸	127
内病外治の方法の多さ	133

Part 5 中医養生を語る142



薬補は食補に及ばず

バランスと健康	142
情志と疾病	144
薬食同源	147
五穀養に為る	150
四時養生	153
過不及のない動静	156

Part 6 近現代中医学の発展159



中国で初めてのイギリス
東インド会社眼病医院

近代中西医の争い	159
中西医彙通の試み	161
中西医結合の模索	164



中国中医科学院

現代中医教育と伝承165

現代中医診療の特徴167

民族医薬の概況169

付録1：中医薬発展の年代記172

付録2：中国歴史年代早見表176

序

中国の伝統医学は偉大なる宝庫のような存在であり、中国の漢民族と他の少数民族が長期の生産と生活の実践を通し、昔人の経験をまとめた貴重な財産である。中医薬学は人類の病の苦痛を除くことを目的にし、人と自然の調和を基本的な考えとし、中国古代哲学の考えを基礎に、自分独自の枠組みを建て、独特な診療方式を形成した。

中医薬学は人と社会の密接な関係を重視している。また、中医薬学は素朴な弁証方法を持ち、天人合一（天と人は理を媒介にして一つながりだと考える）を強調し、整体観を重視している。中医薬の中で最も重要な「気」「陰陽」「五行」などの概念は、古代の中国人の人体機能に対する独特な認識を表す。それは人体内部臓器間の相互関連と影響に対する十分な認識も含むのである。

中医薬学には二つの特徴がある。自然を認識するのと同時に、また人類自身を認識できるのである。自然を認識することは漢方薬学で使う植物、動物、鉱物などの薬物資源をより易く抽出でき、疾患を治療する基



伝統的な漢方薬輔



中医は長期の生産と生活の実践を通し、自分独自の枠組みを建て、独特な診療方式を形成した。



中医は世界の多くの国々の人たちに認められている。

本的な手段となる。また、人体を知ることによって病気になった理由をより正確に知ることにつながり、五臓六腑の機能を把握することができ、また、多くの人類の不適感覚に基づいて疾病を分析・診断し、薬を用いることで治療を行う。このような治療法は『方剤学理論』にまとめられた。同時に、中医薬学は今でも防病・養生方法を模索し、人の寿命を有効に伸ばしている。また、鍼灸治療法は、更に中医薬学の中で重要な作用を発揮していて、世界の多くの国々の人たちに認められている。

中医薬学が残した輝かしい歴史は、歴代の名医と密接に関係している。彼らは大量の医薬書籍と有効な治療経験を今の人たちに残した。

2,000年以上の歴史を持つ中医薬学は、中華民族の生存、健康と長寿に基本的な保障を提供してきた。また、今でもかけがえのない作用を発揮している。中医薬学は東方医学の輝く真珠として、周辺の日本、韓国、東南アジア諸国に大きな影響を与えている。

このように燦爛としている中医薬学では、どのように人体を認識しているのだろうか。その経緯はどういうようなものなのであろうか。その主な理論思惟とは何なのであろうか。また、採用されている薬と鍼灸治療の方法はどのような内容を含んでいるのだろうか。本書は簡素な言葉でこれらのことを説明し、読者の皆様を連れて中医の奥深い扉へと入っていこうと思う。

古代中医の発展歷程

中医と中国伝統文化

天文、数学、農学と医学は中国の古代において、最も主要な 4 つの学科であり、その中でも、医学は最も人文的で伝統的であると認められている。中国伝統医学は古くから中国伝統文化の影響を深く受けている。

「良相」と「良医」

「不為良相，便為良医」（良相に為らず、良医に為るが良い）という、中国古代からの言い伝えがある。この言い伝えには「もし、官僚になれないとしたら、良い医者になれば良い」という意味が含まれている。医者は中国古代において、学び人が二番目に選びたい職業である。これはなぜだろうか。

「仁」は儒学において最高の原則である。これは孔子（前 557 ～ 前 479）が創立した儒家の考えの核心である。「仁」は人と人の間の親善関係を指す、儒教は「仁」を重んじていて、社会の中にいるすべての人が社会もしくは他の人に有利なことをするように要求している。「生身の術」としての医術は痛みを除くができるので「仁」という考えに相応しい。よって、医術は古代において「仁術」と呼ばれている。このような「仁術」考えの影響のもとで、多くの儒学を学んでいる学士は医学を自分の

趣味にしている。このような学士が将来政治の官僚に就けなかった時に、彼らの多くは医学の方に就こうとする。なぜなら、医学の人の痛みを解消する作用は「徳政」に相当し、つまり、医学は政治と同じように人々の生活を良くすることができるため、彼らは医学を通して人々に多くの福祉を提供したいと思い、医学活動を通して自分の「仁」の理想を果たしたいのである。

「中庸」は儒家思想を構成する重要な一部である。儒家は「相対する状況の中で、常に、不偏不党の地位を維持すること」を提唱し、物事が相対に釣合ってバランスを保つことは発展の基本条件であると考え。儒教の中庸思想は中国人の物事の見方や問題を対処する時の態度に深い影響を及ぼしている。同時に、伝統医学の各方面にも広がり、浸透している。漢方医学は、人の体は「陰」と「陽」の2部から構成していると考え、人体の中の「陽」と「陰」が互いにつり合い、一種の動的な平衡状態を保っている時が人の健康な状態である。逆に、人体の中の「陰」と「陽」がつりあわずに失調した時は、「陰陽」両者の間のバランスが破壊され、よって、病気が生まれる。従って、すべての治療は陰陽、血気を平衡的な状態に戻し、中和することを目指す。中医の配方も「四平八穩」（四方は平らかで八方に穏やか）を重んじており、一枚の薬方の中の薬は必ず「君」、「臣」、「佐」、「使」の順番に従わなければならないという原則がある。このように薬を配列することは、偏性を持った異なる種類の薬



三百年の歴史を持つ「同仁堂」は中国で最も有名な漢方薬店である。薬局の店名から分かるように、中医学は儒家の「仁」思想の影響を深く受けている。

物を調和することを主な目的とする。調和することで毒性の強い薬物を抑え、他の薬物の作用を強くしたり、変えたりする。このように調和された薬は新しい有機物質体として、薬の作用を十分に発揮する。

経学は中国古代で儒家の教えを解釈し、儒学の研究をしている学問である。経学の発展は漢方の学術の伝承に大きな影響を及ぼした。古代中国の医者は経学の研究の仕方を真似し、医学の理を研究していた。多くの医者は中医学の『黄帝内経』と『傷寒論』などの名作を中心に、名作に対する解釈したり、特定のテーマについて発表したりすることで、新しい流派を創立し、医学の理論を充実させ、医学実践の発展を促した。今

日でも、『黄帝内経』『傷寒論』などの本は漢方の中の名作とされ、人たちはこれらの理論について、研究・展開して読解している。また、経学の方法を用いて中医学を研究しているため、中国伝統医学の発展のルートは儒学と非常に似ている。



「北の同仁、南の慶余」だと誉められた胡慶余堂が1874年に創立し、建物の上には今でも創立者が立てた「是乃仁術」の四文字が残っている。

「医」と「道」同源

道家学の創始者である老子（約前世紀571～前471）は、「人法地，地法天，天法道，道法自然」と言った。「自然」とは、自然界の各種の



杭州の葛嶺抱朴道院。葛洪がここで修道をしたため、「葛嶺」と呼ぶようになった。また、葛洪の道号が「抱朴子」であるため「抱朴道院」と命名された。

法則である。老子は、人間と自然界は一つの整体であると考え、よって、人と自然は同じ規則を守るべきである。人体の養生、疾病の予防と治療においても、自然という要素を考慮・分析しなければならない。例えば、古代中国に「日の出る時に耕作し、日の沈む時に休息する」という最も素朴な生活スタイルがそうである。もし、逆らって夜更かしをすると、人体と自然の法則に反するため、必ず病気になるのである。

道家はこう考える。「順応自然」（自然に遵う）が養生の元であり、人は「順応自然」、「返璞帰真」（原点回帰）をするのと同時に、「養心」と「養身」も重視しないといけない。人と自然の調和を保ち、学会と社会、そして他人との調和も大事にするべきである。「養心」とは、終始平静な気持ちを保ち、人と事に対して計算ばかりして過度に結果に執着せず、知足常楽を達成することである。

「養生」は今の中国で人気な話題の一つである。「養生」は道家学派の創始者である莊子（約紀元前 369 ～前 286）に起源する。莊子はこう考えた。養生の道の重点は自然に順応し、心性の淳朴を保ち、外のものに